

表1. 過去3年間の繁殖成績

	H26	H27	H28
雌牛頭数	41	40	38
雌牛年齢	9.4	9.6	9.6
1頭あたりの授精回数	2.1	2.3	2.4
分娩間隔	408.8	409.1	416.8
分娩率	80%	78%	63%
不受胎による廃用頭数	3	3	9

図1. BCS

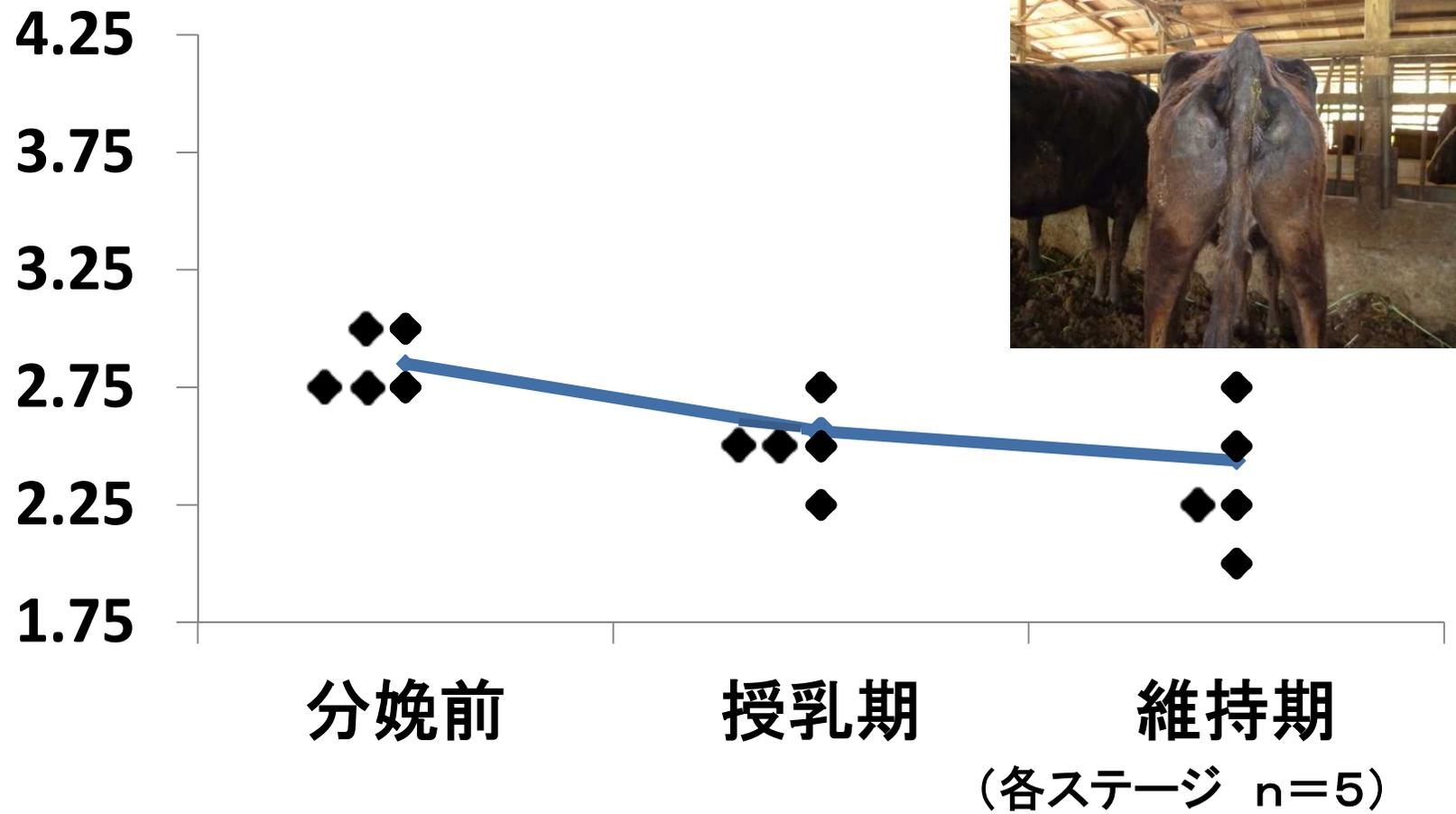


表2. 給与飼料の栄養水準

	DM充足率	CP充足率	TDN充足率	BCSの平均
分娩前	83%	121%	114%	2.85
授乳期	80%	95%	107%	2.56
維持期	83%	147%	119%	2.43

* 聞き取った給与量より算出

図2. 超早期離乳



図3. 自給飼料生産



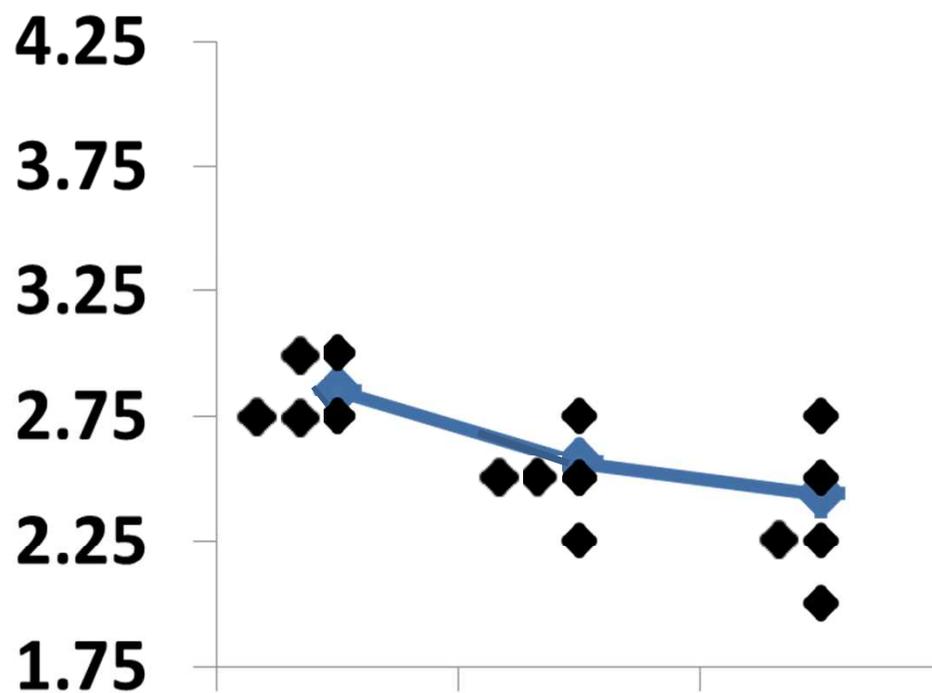
獣害の少ない作付場所



電気柵の設置

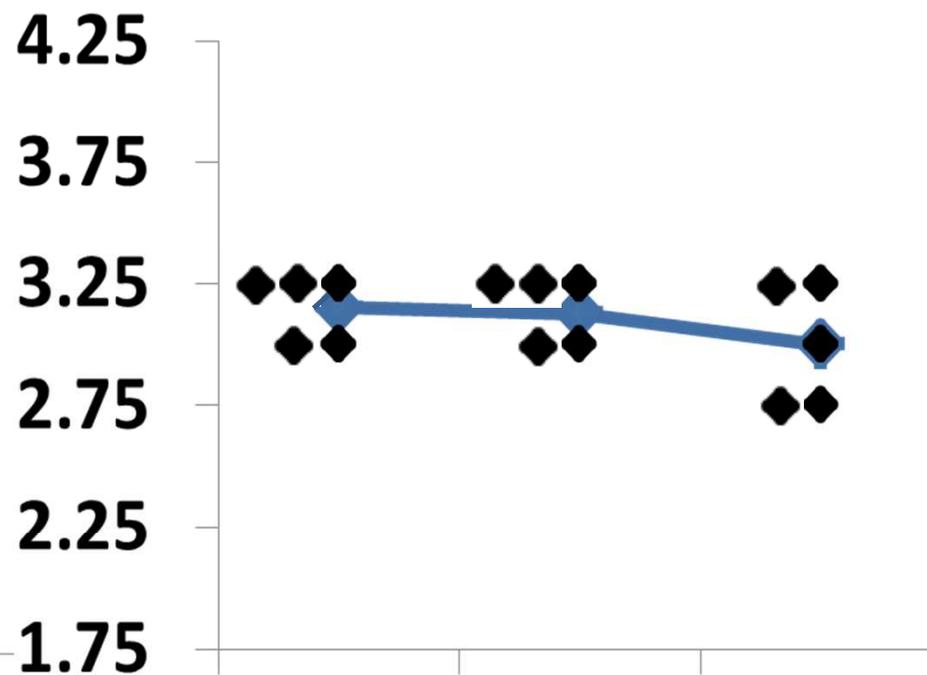
図4. BCSの比較

対策前



分娩前 授乳期 維持期
(各ステージ n=5)

対策後



分娩前 授乳期 維持期
(各ステージ n=5)

各ステージにおいてBCSが上昇 (授乳期 2.56→3.14)

表3. 繁殖成績の比較

	対策前	対策後
空胎日数	147.1	74.0
授精回数	2.4	1.2
初回授精日数	76.6	64.3

* 対策を行った牛の前産の成績との比較 (n=10)

図5. 経済効果の試算

○ 超早期離乳による必要経費

代用乳の費用 ≒ 改善飼料(授乳期)の費用
労働費(哺乳作業1時間)

2,100円の経費増 (畜産経営指導事業より)

○ 繁殖成績向上による効果

空胎日数 : 73.1日短縮

1日の生産費 12,431円 (母牛31頭 原価償却含む)
(畜産経営指導事業より)

授精回数 : 1.2回減少

1頭の削減経費 6,060円 (労働費30分含む)

年間の試算

$$(12,431 \times 73.1) + (6,060 \times 31) - (2,100 \times 365) = \mathbf{330,066円}$$